

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： マルチモーダルフェノタイピングによる適応型情報協働栽培手法の確立
2. 研究代表者： 峰野 博史（静岡大学 学術院情報学領域 教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、先端 IoE を駆使し、静的かつ動的な植物生理情報や生育に影響する農作業も含めたマルチモーダルフェノタイピング技術を開拓し、ヒューマンインザループによる革新的な適応型情報協働栽培手法の確立を目指すものである。フェーズ 1 では、個別の植物に関するニーズに対応したシステム開発を行い、原著論文、特許等、多数の成果をあげており、計画は順調に進捗している。また、他の創発研究者との交流を端緒とした共同研究も実施しており、今後のさらなる発展も期待できる。フェーズ 2 の研究計画においては、各計画の内容に具体性があり、今後の成果、特に実用化など波及効果の点で期待が持てる。フェーズ 2 では引き続き、個別の植物に対するニーズに応えつつ、様々な植物に適用できる統合的なシステムへの進化を期待する。

以上